

2020年度 小委員会活動成果報告

(2021年2月5日作成)

小委員会名	連続体力学の連成問題小委員会		主査名：山田貴博 就任年月：2020年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)		委員長名：塩原 等 主査名：川口健一
設置期間	2020年4月 ～ 2024年3月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	空間・シェル構造を含む連続体力学における連成問題について、最近の新しい理論面と応用面の展開を調査・研究し、その成果を公開する。 初年度：建築・土木分野の連成問題の理論面・応用面に調査研究を行う。 2年度：機械・船舶・航空・原子力分野の連成問題の調査研究を行う。 3年度：マルチフィジックスなど連成問題に対する計算手法の調査研究を行う。 4年度：シンポジウムを開催し、分野横断的な連成問題の理論面・応用面および計算手法の調査研究の成果を公開する。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：山田貴博(横浜国立大学) 幹事：磯部大吾郎(筑波大学) 委員：遠藤龍司(職業能力総合開発大学校)、大嶋昌巳(千代田化工建設)、近藤典夫(日本大学)、柴田良一(岐阜高専)、高野真一郎(大林組)、登坂宣好(元日本大学)、濱本卓司(東京都市大学)、松井徹哉(名古屋産業科学研究所)		
設置WG (WG名：目的)			
2020年度予算	80,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 初年度として、活動の方向性を決定することができた。 2. 建築・土木分野を中心とした連成問題の理論面・応用面に調査研究については、目標を概ね達成できた。
委員会活動の問題点・課題	1. 前身の小委員会からの委員が固定化しており、若手委員の参画が必要である。